

新旧高層ビル

吉田 真人

3月10日、東京ミッドタウンと名の付く3番目のビルが東京駅八重洲口の目の前に開場した。高さ240[㍎]で地下階にバスターミナル、地上階は商業施設とオフィス、そして最上層は高級ホテル（ブルガリホテル）となっている。

八重洲口周辺では再開発が進んでおり、他にも幾つかの大プロジェクトが進行中で、テナント集めも苦戦が伝えられていた。テナントの中にM化学の名があるのが目を引いた。何だかいつか通った道のようなのだ。

1968年、日本で最初の高層ビルである霞ヶ関ビルが誕生した。36階建て、高さ147[㍎]、三井不動産が所有、施行は鹿島。翌年には映画『超高層のあけぼの』が公開され、同年度邦画興行ランキング2位となる等、当時大きな注目を集めた。

竣工当時、折からビル不況であったこと、地震に対する不安という先入観により、オフィスのテナント集めは難航した。そこで所有主からの要請により店子となったのがM化学である。私が丁度新入社員となった年であり、以来海外赴任期間を除き、30年近く此処に通うこととなった。

1階のレストラン街には人気店や高級店が入った。良く行ったのが排骨拉麺の「万世麵店」、天ぶらの「新宿つな八」、広島料理の「八雲」。今では殆どの店が入れ替わり、唯一「万世」だけがこの地で営業を続けている。

36階は展望台として有料公開され、国会議事堂や皇居が間近に見えるので、人気を呼んだ。当初暫くは、エレベーターの順番を待つ客の列が溜池交差点まで及ぶ程であった。新聞に載った京王帝都電鉄社長のコメントが今でも記憶に残っている。「新宿から八王子まで線路を敷き、電車を走らせて、頂戴する乗車賃が130円。それに較べて、たった150[㍎]足らずを上に移動して、その数倍の課金、何とも羨ましい」

12階に強く記憶に残る喫茶店があった。ここには何時も和服を瀟洒に着こなした女将がいた。芸妓出身でグループ会社重鎮の愛妾だ、という噂であったが、そういう時代でもあったろう。

(2023年3月23日)